



堺化学工業株式会社

2026年3月期

中間決算説明会

2025年12月1日

【東京証券取引所・プライム市場 証券コード：4078】

本説明のポイント

26.3期 上期 実績

➤ 計画比：概ね計画通りに推移

化粧品材料や樹脂添加剤/海外現地法人での不振を、電子材料やその他事業での販売量増加によりカバーし、概ね計画通りとなった。

➤ 前年比：減収ながら25.1%の増益を確保

中計1年目同様、引き続き効率化に取り組む中で効率化検討事業を中心に売上高は減少した。しかし、成長事業での電子材料事業における高付加価値品の台頭による利益の増加や、その他事業での価格改定や販売量増加により、前年同期比で25.1%の増益となった。

26.3期 通期 計画

➤ セグメント毎の濃淡はあるが、期初計画通り、6,500百万円の営業利益を見込む

酸化チタン事業終了に伴う固定費率の増加や（期初計画織込み済み）、成長事業の化粧品材料での伸び悩みはあるが、下期も好調な電子材料やその他事業が利益を牽引し、期初計画通りの営業利益を見込む。尚、米国相互関税政策による影響は、上期実績が軽微であったため、通期計画値には織り込んでいない。

株主 還元

➤ 本中計の基本方針（株主還元総額80億円以上）に変更なし

➤ DOE 3 %を目安とした配当は 期初計画の**130円/株**を予定（配当総額 約20億円）

➤ 自己株式の取得は、**2,380百万円（87万株）**を取得済み（2025年10月末時点） （上限：2,500百万円 or 100万株）

中計 の 進捗

➤ 営業利益：効率化検討事業やその他事業での収益改善や、電子材料事業の復調により、**期初計画通り、6,500百万円を見込む**

➤ 資本効率：CCCは計画対比50%以上の進捗（24.3期比 ▲18日、営業CFで49億円創出） **営業活動拠点の効率化を図るため、期初計画通り、** 関係会社/東京事務所の売却を実行（売却益：1,172百万円）

➤ R O E：期初計画の営業利益達成に加え、**自己株式取得や固定資産売却を進め、** **資産効率を改善し、8%(27.3期目標)へ向けて着実に施策を進めていく**

2026年3月期 中間決算サマリー

2026年3月期 中間決算サマリー

● 前年同期比（売上高：▲4.3% ／ 営業利益：+25.1%）

売上高は、効率化検討事業の効率化による販売量の減少が大きく、減収となった。
営業利益は、成長事業の電子材料やその他事業での収益改善が大きく、増益となった。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場の復調	・中国経済の長引く低迷 ・国内亜鉛建値市況の下落	・価格改定の浸透	・高付加価値品の販売減少 (化粧品材料)

● 期初計画比（売上高 ▲3.9% ／ 営業利益 ▲0.5%）

売上高は、終売に向けた酸化チタンの販売量減や、樹脂添加剤での海外現地法人の不振により計画比▲3.9%。
営業利益は、化粧品材料や樹脂添加剤/海外現地法人の不振を電子材料や有機化学品、その他事業でカバーし、ほぼ期初計画通りの進捗となった。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場の復調	・中国経済の長引く低迷 ・国内亜鉛建値市況の下落 ・タイ国の政情不安	・価格改定の浸透	・高付加価値品の販売減少 (化粧品材料)

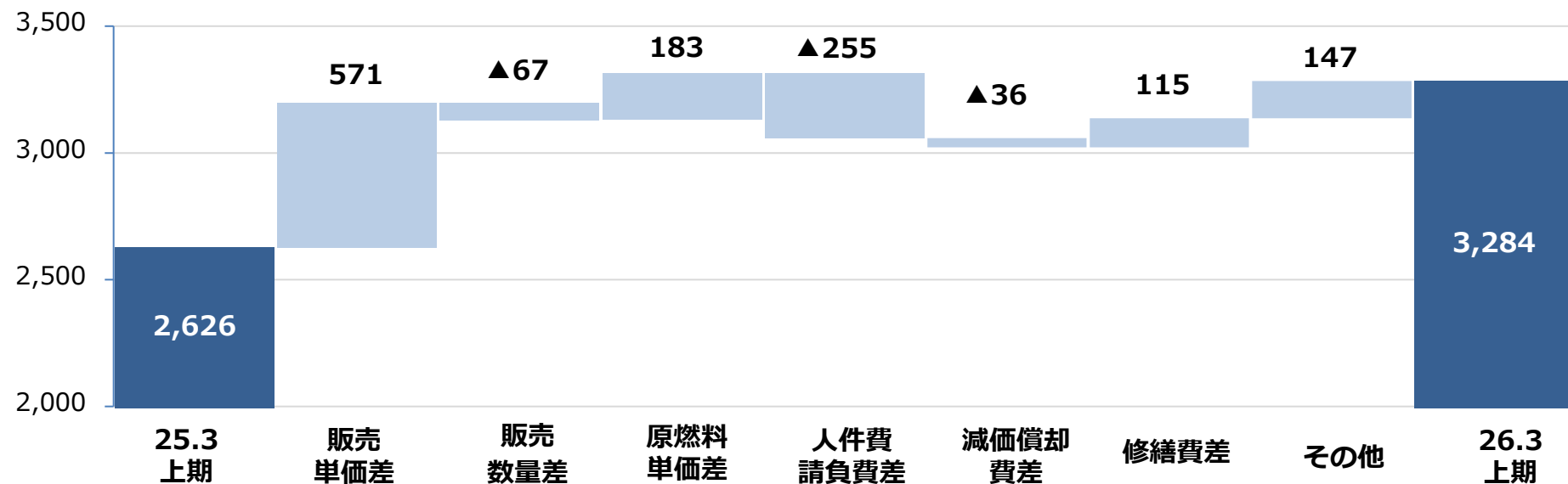
2026年3月期中間決算業績概要（前年同期比、計画比）

	25.3 上期実績		26.3 上期実績		前年同期比		26.3 上期計画		26.3期 計画比	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	42,168	—	40,353	—	▲1,814	▲4.3	42,000	—	▲1,646	▲3.9
営業利益	2,626	6.3	3,284	7.8	657	25.1	3,300	6.2	▲15	▲0.5
経常利益	2,633	6.3	3,269	7.8	636	24.2	3,300	6.0	▲30	▲0.9
親会社株主に帰属する当期純利益	1,746	4.2	2,926	7.0	1,179	67.5	2,800	4.9	126	4.5
EPS	107円71銭		184円65銭		—		172円68銭		—	

	前年同期比	期初計画比
売上高	電子材料を中心とした成長事業での売上高の増加はあったものの、効率化検討事業での販売数量の減少により、前期比 ▲4.3%となった。	半導体市況の回復に伴い、電子材料での販売が想定より好調に推移するも、化粧品材料や、樹脂添加剤事業の海外現地法人での販売が振るわず、期初計画比 ▲3.9 %となった。
営業利益	電子材料が好調に推移し、有機化学品における医薬品原薬中間体での販売構成差の改善や、その他事業での収益改善や販売数量増加が寄与し、7.8%の増益となった。	化粧品材料や樹脂添加剤の海外現地法人での落ち込みを、電子材料やその他事業の好調な販売でカバーし、概ね計画通りとなった。

営業利益増減要因（前年同期比）

（百万円）



プラス要因

販売単価差

- ・ 不採算製品を中心とした価格改定効果
- ・ 有機化学品/医薬品原薬中間体での販売構成差の改善
- ・ 採算是正や不採算品の統廃合等による販売構成差の改善

修繕費差

- ・ 終売予定の酸化チタンの修繕費を例年よりも抑制

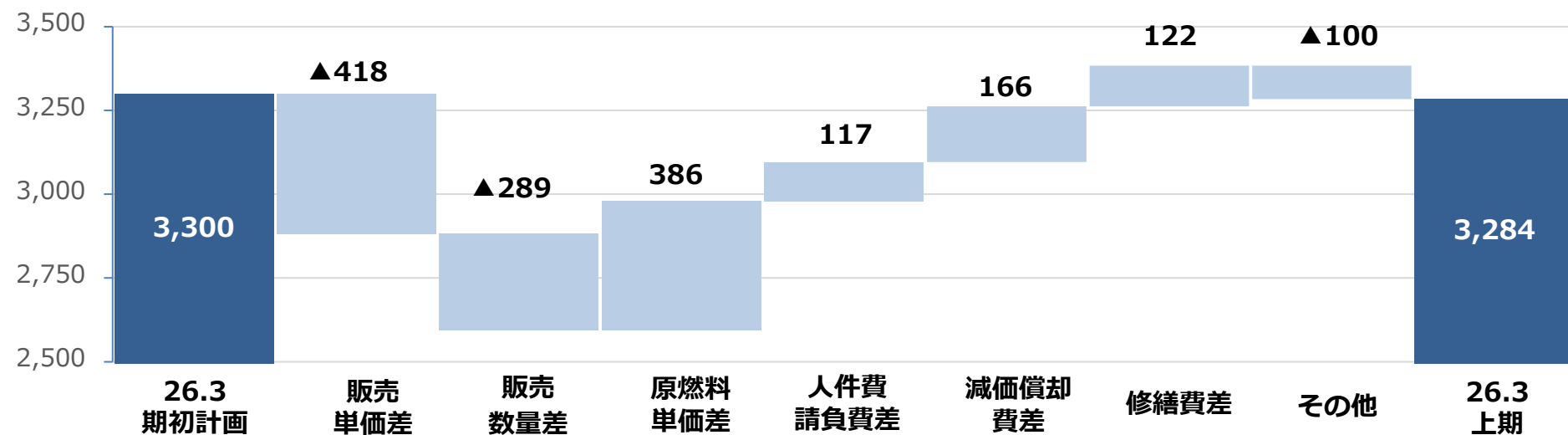
マイナス要因

人件費請負費差

- ・ ベースアップによる影響

営業利益増減要因（期初計画比）

（百万円）



プラス要因

原燃料単価差

- ・ 上期については、期初想定よりも安価に調達

修繕費差

- ・ 終売予定の酸化チタンの修繕費を必要最低限に圧縮

マイナス要因

販売単価差

- ・ 比較的単価の高い化粧品材料の販売が計画未達
- ・ 国内亜鉛建値相場が想定よりも安価に推移

販売数量差

- ・ 化粧品材料や、樹脂添加剤事業の海外現地法人での販売が計画未達

貸借対照表比較

比較連結 B/S (単位：百万円)	2025.3	2025.9	増減
現金及び預金	16,183	14,969	▲1,214
受取手形及び売掛金	26,997	26,373	▲624
棚卸資産	26,993	26,534	▲459
その他	1,241	874	▲367
流動資産 合計	71,416	68,752	▲2,664
有形固定資産	44,520	45,114	594
その他	7,382	8,041	659
固定資産 合計	51,903	53,156	1,253
資産 合計	123,319	121,908	▲1,411
支払手形及び買掛金	8,561	8,556	▲5
短期借入金	11,512	12,020	508
その他	7,835	7,818	▲17
流動負債 合計	27,910	28,394	484
長期借入金	7,406	5,914	▲1,492
転換社債型新株予約権付社債	3,000	3,000	-
その他	5,614	5,711	97
固定負債 合計	16,022	14,625	▲1,397
負債 合計	43,933	43,020	▲913
株主資本	74,679	74,361	▲318
その他	4,706	4,526	▲180
純資産 合計	79,386	78,887	▲499
負債・純資産 合計	123,319	121,908	▲1,411

【主な増減】

・売上債権 ▲624百万円 (▲2.3%)

- ①回収サイトの短縮
- ②期末直前3か月の売上高の減少

・棚卸資産 ▲459百万円 (▲1.7%)

終売に向けた酸化チタン製品の積み増し
他製品/原材料の在庫削減努力による圧縮

・有形固定資産 594百万円 (+1.3%)

効率化検討事業の再構築関連（触媒事業）

・長期借入金の返済 ▲1,492百万円(▲20.1%)

	24.3期末	25.9期末
自己資本比率	59.3%	63.8%
CCC	216日	198日

▲ 18日の改善

(*CCC：キャッシュ・コンバージョン・サイクル)



キャッシュフロー計算書比較

比較連結 C/F(単位：百万円)	2024.9	2025.9	増減
期首 現預金残高	16,475	16,153	▲322
税金等調整前当期純利益又は当期純損失	2,416	4,349	1,933
減価償却費	1,828	1,849	21
売上債権の増減額	2,492	518	▲1,974
棚卸資産の増減額	1,771	310	▲1,461
仕入債務の増減額	▲158	545	703
減損損失	-	-	-
法人税等の支払額、還付額	▲292	▲572	▲280
その他	▲638	▲1,247	▲609
営業活動によるキャッシュフロー	7,420	5,752	▲1,668
有形固定資産の取得による支出	▲3,693	▲3,677	16
有形固定資産の売却による収入	2	1,274	1,272
投資有価証券売却	786	-	▲786
その他	▲47	▲199	▲152
投資活動によるキャッシュフロー	▲2,952	▲2,602	350
FCF(営業CF+投資CF)	4,468	3,149	▲1,318
短期借入金・長期借入金の増減額	▲5,835	▲967	4,868
自己株式取得による支出	▲0	▲2,089	▲2,089
配当金の支払額	▲578	▲1,175	▲597
子会社株式の取得による支出	▲150	-	150
その他	▲11	-	11
財務C/F計	▲6,578	▲4,232	2,346
現預金に係る換算差額計	268	▲222	▲490
現預金増減計	▲1,841	▲1,305	536
期末 現預金残高	14,633	14,847	214

【総括】

資産側では、効率化に伴う売上債権の減少や、棚卸資産や固定資産の圧縮を進めながら、資本側では、資本効率改善に向けて自己株式取得を実施した。

【営業CF】

① 売上債権の減少

- － 回収サイトの短縮は継続中
- － 前期は前々期末が銀行休業日だったことによる一部入金のずれの影響が大きかった。

② 棚卸資産の減少

1年目から成果を出してきた在庫圧縮により、2年目中間期は、1年目中間期に比べ、CFベースでの効果は減少した。

【投資CF】

資産効率改善に向けて、関係会社東京事務所を売却。

→ FCFは、▲1,318百万円 となった

【財務CF】

資本効率改善に向けて、自己株式取得を実施。

セグメント別 営業利益（前年同期比）

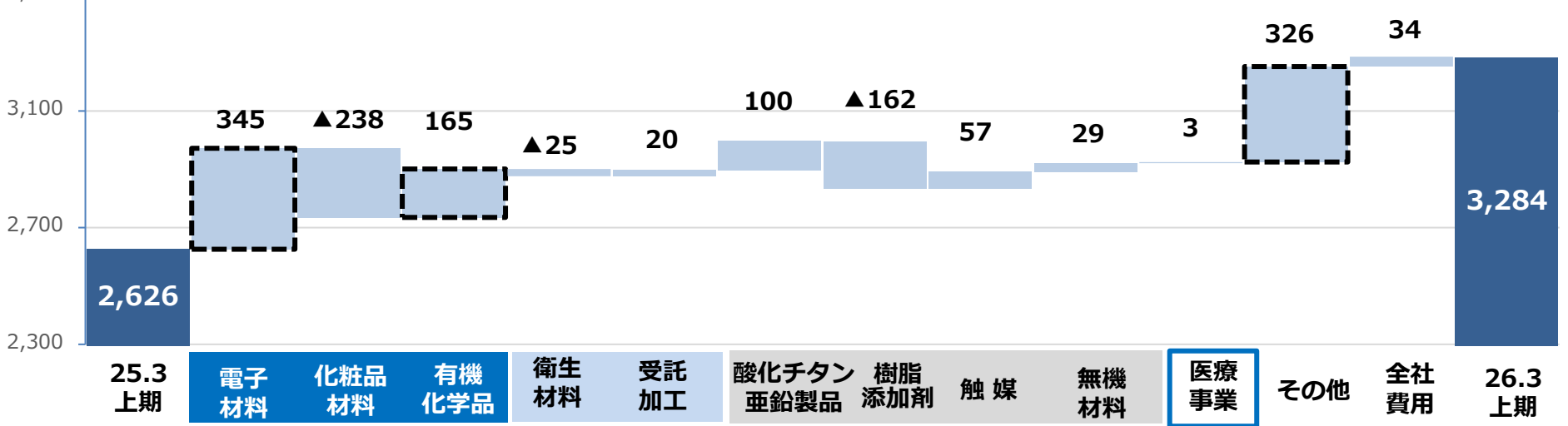
事業別 営業利益 明細（百万円）		25.3 上期	26.3 上期	増減
成長事業		1,028	1,300	272
	電子材料	668	1,014	345
	化粧品材料	22	▲215	▲238
	有機化学品	336	502	165
安定事業		537	533	▲4
	衛生材料	206	181	▲25
	受託加工	331	351	20
効率化検討事業		1,794	1,819	25
	酸化チタン・亜鉛製品	557	657	100
	樹脂添加剤	682	520	▲162
	触媒	92	150	57
	無機材料	461	491	29
医療事業		68	72	3
その他		398	724	326

セグメント営業利益増減（対前年同期比）



(百万円)

- 成長事業は期初計画では通期減益を見込んでいたが、化粧品材料の足踏みを含めても上期は増益となった。
- その他事業での収益改善や販売数量増加も、増益に大きく寄与した。



2026年3月期 業績予想

2026年3月期業績予想

- 売上高に関しては、化粧品材料の落ち込みを電子材料やその他事業でカバーし、上期実績対比では増収となり、期初計画通りとなる見込み。
- 利益面に関しては、売上高は好調に推移するも、期初想定通り、顔料級酸化チタン事業の終売に伴い操業が停止するため、原価に占める固定費率が高まって、上期実績並みの利益となり、計画通りとなる見込み。

	25.3		26.3						
	通期実績		上期実績		下期予想		通期計画		
	百万円	売上高比	百万円	売上高比	百万円	売上高比	百万円	売上高比	前期比
		%		%		%		%	%
売上高	84,409	—	40,353	—	45,647	—	86,000	—	1.9
営業利益	6,093	7.2	3,284	7.8	3,216	7.0	6,500	7.6	6.7
経常利益	6,279	7.4	3,269	7.8	3,231	7.1	6,500	7.6	3.5
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,013	5.9	2,926	7.0	2,574	5.6	5,500	6.4	9.7

外部要因（想定）		内部要因（想定）	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・ 半導体市場 AI関連は好調に推移 車載関連は回復傾向	・ 中国経済低迷の長期化 ・ 国内建材関連の需要低迷	・ 修繕費の圧縮	・ 操業度の低下

* 米国相互関税政策による影響は上期が軽微であったため、下期も本影響は加味していない。

2026年3月期業績予想（米国相互関税政策に関する現時点の見解）

- 26.3期上期については、直接的な影響はほとんどなく、軽微であった。
- 26.3期下期については、現時点で大きな影響を受けることは想定していない。
- 電子材料関連の取引中心に景気の低迷も懸念されるため、引き続き動向を注視する。

プラスの影響	マイナスの影響
・ 為替 ドル安円高基調となれば、輸入原料を 期初想定為替レートよりも円高で仕入れ られる可能性がある	・ 電子材料関連 半導体に絡むサプライチェーンの取引の 停滞 ・ それ以外のセグメント 世界的な消費低迷により、 多くのセグメントでの販売量の低下 * 直接的な影響はないものの、各セグメン トで間接的な影響を受ける

* 米国相互関税政策による影響は上期が軽微であったため、下期も本影響は加味していない。

事業環境の認識

	事業	26.3期 計画の前提（5月時点）		26.3期 修正計画の前提（10月時点）
成長事業	電子材料	半導体市場は、 ・ AI関連については好調を維持 ・ 少なくとも自動車向けは低調に推移		半導体市場は、 ・ AI関連は、引き続き好調に推移 ・ 自動車向けは回復傾向
	化粧品材料	・ 国内外ともに堅調に回復していく ・ 中国市場は引き続き厳しい見通し		・ 中国市場は引き続き厳しい見通し ・ 物価高による米国市場での需要低下 ・ 安価な有機系紫外線吸収剤の適用増加
	有機化学品	・ メガネレンズ市場は、堅調に推移。 ・ 医薬品原薬中間体の主力商流品の受託は、競争環境の激化により減少傾向の見通し		・ 5月時点と同様
効率化検討事業	酸化チタン 亜鉛製品	酸化チタン	・ 安価海外品の国内流入が続き、供給過多の状況が続く	・ 5月時点と同様
		亜鉛製品	・ 国内亜鉛建値市況は下落傾向	・ 国内亜鉛相場は夏場頃から上昇傾向へ
	樹脂添加剤	国内	・ PVC市況は下降傾向 * PVC:polyvinyl chloride（ポリ塩化ビニル）	・ 5月時点と同様
		海外	・ 中長期的に、PVC市況は拡大 ・ 足元のPVC市況は、タイ経済の低迷や中国経済の影響により減速感あり	・ 5月時点と同様
	無機材料	・ 自動車関連部品・素材は、低調に推移 ・ メガネレンズ市場は、堅調に推移		・ 5月時点と同様

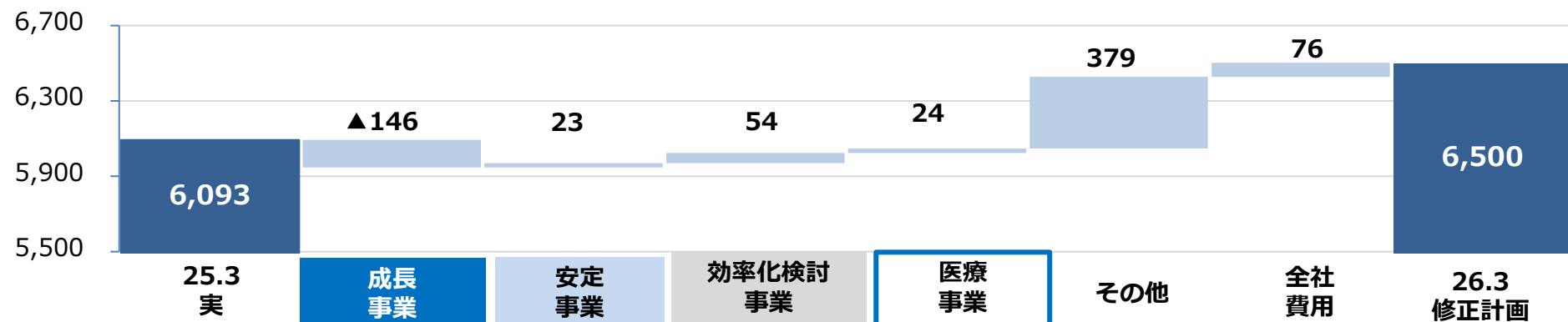
セグメント別 予想（対前期実績比）

	25.3 期 実績			26.3 期 修正計画			差			
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
電子材料	10,014	1,493	14.9	12,000	1,860	15.5	1,986	19.8	367	24.6
化粧品材料	2,676	293	11.0	1,700	▲180	▲10.6	▲976	▲36.5	▲473	▲161.4
有機化学品	6,638	770	11.6	7,500	730	9.7	862	13.0	▲40	▲5.2
衛生材料	5,623	427	7.6	5,200	360	6.9	▲423	▲7.5	▲67	▲15.7
受託加工	6,422	620	9.7	6,900	710	10.3	478	▲7.4	90	14.5
酸化チタン 亜鉛製品	13,118	1,479	11.3	11,900	1,270	10.7	▲1,218	▲9.3	▲209	▲14.1
樹脂添加剤	13,061	1,393	10.7	11,500	1,000	8.7	▲1,561	▲12.0	▲393	▲28.2
触媒	3,186	18	0.6	3,500	570	16.3	314	9.9	552	3,066.7
無機材料	5,175	826	16.0	5,400	930	17.2	225	4.3	104	12.6
医薬事業	8,321	▲24	▲0.3	8,600	0	0.0	279	3.4	24	▲100.0
その他	10,169	1,171	11.5	11,800	1,550	13.1	1,631	16.0	379	32.4
全社費用	—	▲2,376	—	—	▲2,300	—	—	—	76	▲3.2
連結	84,409	6,093	7.2	86,000	6,500	7.6	1,591	1.9	407	6.7

セグメント別 予想（対期初計画比）

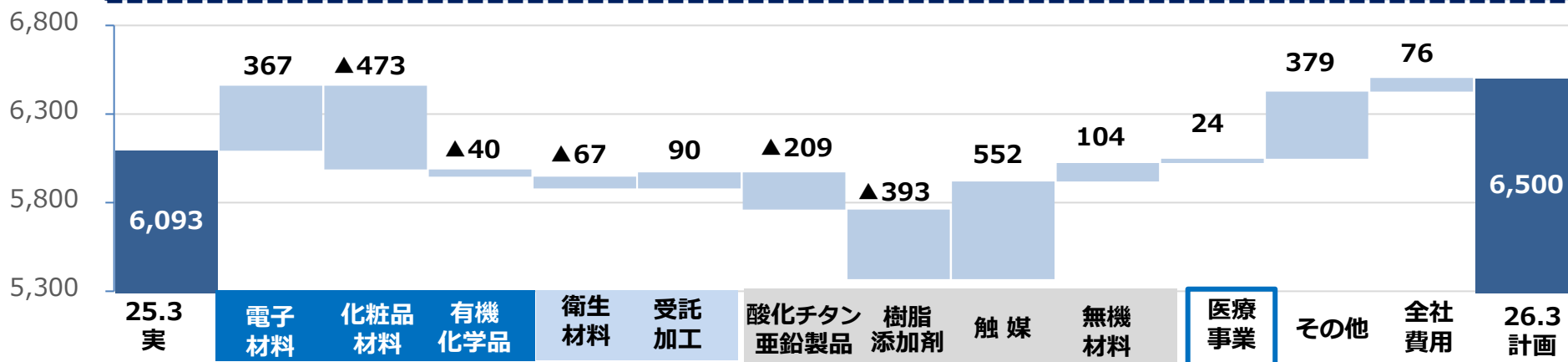
	26.3 期 期初計画			26.3 期 修正計画			差			
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
電子材料	10,100	1,430	14.2	12,000	1,860	15.5	1,900	18.8	430	30.1
化粧品材料	2,800	270	9.6	1,700	▲180	▲10.6	▲1,100	▲39.3	▲450	▲166.7
有機化学品	7,500	730	9.7	7,500	730	9.7	—	—	—	—
衛生材料	5,600	440	7.9	5,200	360	6.9	▲400	▲7.1	▲80	▲18.2
受託加工	6,700	710	10.6	6,900	710	10.3	200	3.0	—	—
酸化チタン 亜鉛製品	11,900	1,140	9.6	11,900	1,270	10.7	—	—	130	11.4
樹脂添加剤	13,600	1,430	10.5	11,500	1,000	8.7	▲2,100	▲15.4	▲430	▲30.1
触媒	3,500	430	12.3	3,500	570	16.3	—	—	140	32.6
無機材料	5,400	930	17.2	5,400	930	17.2	—	—	—	—
医薬事業	8,600	0	0.0	8,600	0	0.0	—	—	—	—
その他	10,300	1,290	12.5	11,800	1,550	13.1	1,500	14.6	260	20.2
全社費用	—	▲2,300	—	—	▲2,300	—	—	—	—	—
連結	86,000	6,500	7.6	86,000	6,500	7.6	0	—	0	—

26.3期 セグメント営業利益増減（対前期実績比）

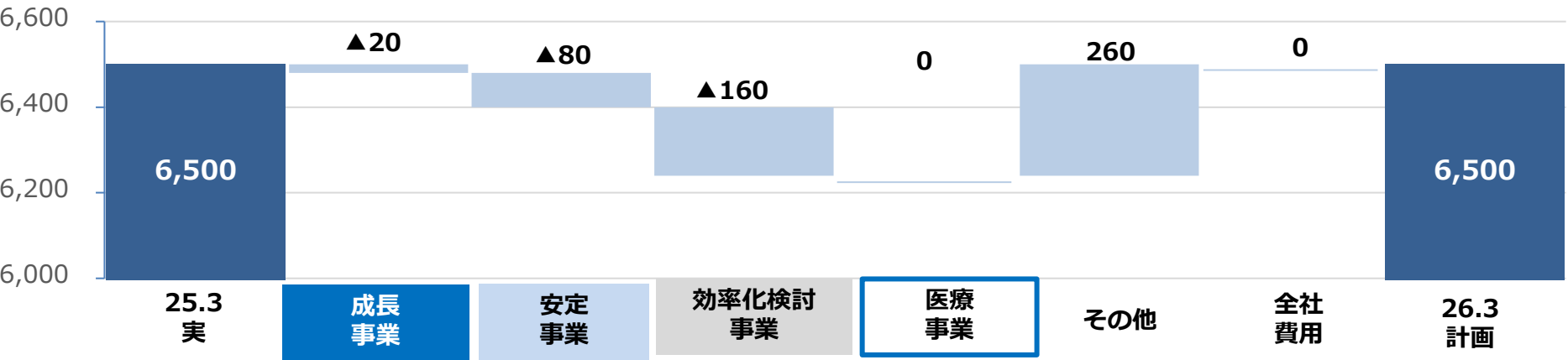


(百万円)

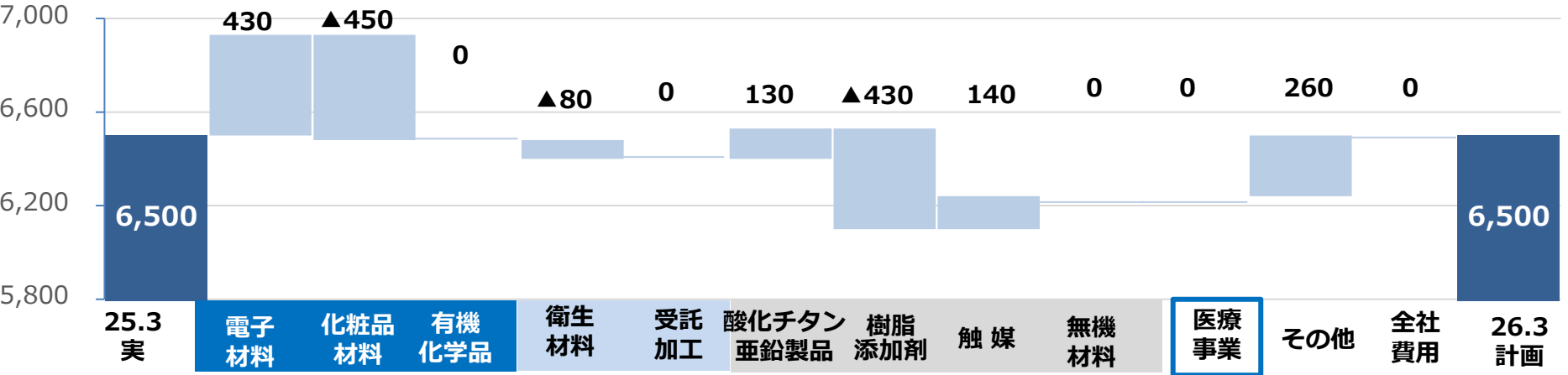
- 顔料級酸化チタンの生産終了（2025年末予定）による固定費負担の影響がない、その他事業での価格改定効果や販売数量増による収益改善効果が年間通じて寄与する。
- 成長事業に関しては、化粧品材料の販売数量が伸び悩む一方、電子材料は引き続き好調に推移すると見込む。
- 効率化検討事業は、樹脂添加剤は海外法人での販売が苦しいが、拠点集約費用負担が小さくなった触媒事業での販売数量増加による増益を見込む。



26.3期 セグメント営業利益増減（対期初予想比）



- (百万円)
- 顔料級酸化チタンの生産終了（2025年末予定）による固定費負担の影響がない、その他事業での価格改定効果や販売数量増による収益改善効果が年間通じて寄与する。
 - 成長事業に関しては、化粧品材料の販売数量が伸び悩む一方、電子材料は引き続き好調に推移すると見込む。
 - 効率化検討事業は、樹脂添加剤は特にタイ法人での販売が期初想定以上に振るわない見通し。



設備投資・減価償却・研究開発費推移

(単位：百万円)

	21.3	22.3	23.3	24.3	25.3	26.3 計画	25.9
設備投資	9,567	5,967	2,658	4,024	6,945	8,000	3,677
減価償却費	4,243	4,331	4,417	4,354	3,649	4,000	1,849
研究開発費	2,487	2,376	2,674	2,722	2,699	2,800	1,400

設備投資について		
	26.3 計画	
	成長投資	更新投資
比率	約50%	約50%
主な内容	- 有機化学品： 医薬品原薬中間体 CDMO化対応 - 化粧品材料： メイク材料向けマルチ プラント建設	- 堺・小名浜両事業所 再構築 - 触媒事業の効率化対応 (拠点集約関連)

中期経営計画「変革・BEYOND2030」の進捗経過

「変革・BEYOND2030」の位置づけ

将来に向けた変革ステージとして、**高付加価値品シフト**に集中的に取り組む



営業利益計画対比 ～「変革・BEYOND2030」の進捗経過～

- 効率化による利益の基盤を確保
- 27.3期(中計最終年度)に向けて、成長事業の利益成長を推し進める

事業別 営業利益 明細 (百万円)	①24.3	②25.3	修正計画 ③26.3	24.3 ⇒ 26.3修正 増減 (③－①)
成長事業	2,029	2,557	2,410	381
電子材料	616	1,493	1,860	1,244
化粧品材料	120	293	▲180	▲300
有機化学品	1,293	770	730	▲563
安定事業	1,011	1,047	1,070	59
衛生材料	448	427	360	▲88
受託加工	563	620	710	147
効率化検討事業	1,268	3,718	3,770	2,502
酸化チタン・亜鉛製品	▲22	1,479	1,270	1,292
樹脂添加剤	762	1,393	1,000	238
触媒	351	18	570	219
無機材料	177	826	930	753
医療事業	89	▲24	0	▲89
その他	762	1,171	1,550	788

成長事業に関して ～「変革・BEYOND2030」の進捗経過～

電子材料		期初計画	26.3上期実	進捗率	修正通期計画	計画修正幅		
		百万円	百万円	%	百万円	百万円	外部環境	
	売上高	10,100	5,847	57.9	12,000	1,900	足元について	AI関連の台頭、EVなどの電装化の加速
	営業利益	1,430	1,014	70.9	1,860	430	今後に向けて	概ね順調に推移。 誘電体：自動車向け回復 誘電体材料：価格是正の浸透、高付加価値品の台頭
化粧品材料		期初計画	26.3上期実	進捗率	修正通期計画	計画修正幅		
		百万円	百万円	%	百万円	百万円	外部環境	
	売上高	2,800	694	24.8	1,700	▲1,100	足元について	①中国景気低迷の長期化、②物価高による米国での需要低下 ③安価な有機吸収剤適用増加 と、マイナス要因が増加
	営業利益	270	▲215	—	▲180	▲450	今後に向けて	海外大手メーカーへの出荷は始まるも、外部環境の悪化もあり、主要顧客向けの販売量が低調に推移し、海外新規拡販も不調
有機化学製品		期初計画	26.3上期実	進捗率	修正通期計画	計画修正幅		
		百万円	百万円	%	百万円	百万円	外部環境	
	売上高	7,500	3,814	50.9	7,500	—	足元について	有機硫黄化合物 近視人口の増加によるメガネ需要の高まり
	営業利益	730	502	68.8	730	—	今後に向けて	大手製薬メーカーのファブレス化 原薬生産の地政学リスク回避
							足元について	主力品の受託先での競争環境激化 新規の開発受託(CDMO)推進中
							今後に向けて	生産工程の改善を加速させ、需要増に着実に応えていく
								CMOで培った実績を活かし、CDMOでの新規拡販を加速させる

(CMO : Contract Manufacturing Organization

CDMO : Contracting Development Manufacturing Organization)



株主還元 ～「変革・BEYOND2030」の進捗経過～

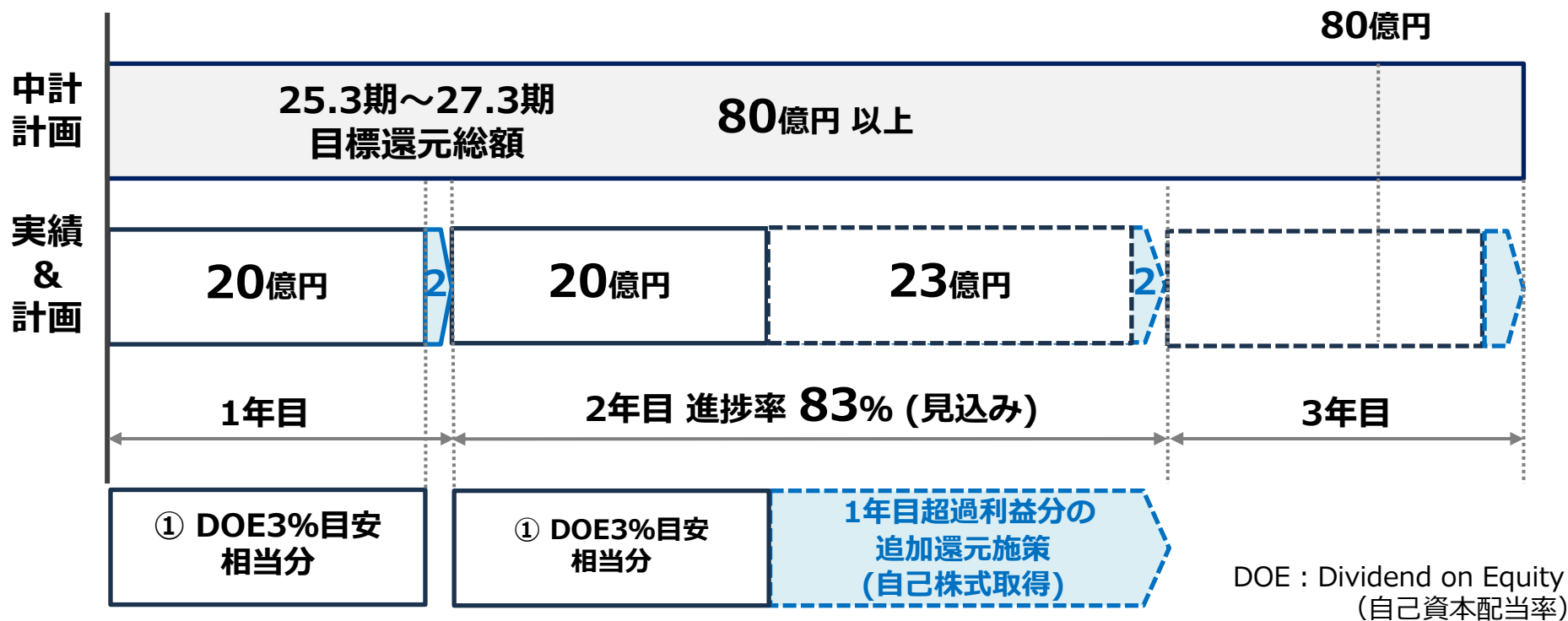
➤ 基本方針に変更はなし（総額80億円以上の株主還元の実施）

- ① 配当は「DOE 3 %を目安」に安定配当を実施する。
- ② 業績推移や**目標ROEも勘案し**、配当増額や自己株式取得など追加施策を検討する。

➤ 期初計画通り、DOE相当分として、**配当総額 約20億円**を配当予定

⇨ **中間配当 65円/株、期末配当 65円/株**

➤ 25億円を上限に実施中の**自己株式取得は、23億円（10月末現在）を実施済み** （取得株式は、**すべて消却**を行う予定）



CCCの改善について ～「変革・BEYOND2030」の進捗経過～

■ CCC 目標：日数ベース：180日以下、

金額ベース：3か年累計70億円（27.3）

➤ 25.3期対比では、CCCは4日増加するも、営業CFは改善

（要因：顔料級酸化チタン終売に向けた在庫積み増し & 効率化に伴う売上高の減少）

➤ 24.3期対比では、CCCは▲18日、営業CFは49億円創出している

	単位	24.3	25.3	25.9	増減 (24.3 ⇔ 25.9)
売上債権 回転期間	日	130	115	118	▲12
棚卸資産 回転期間	日	126	115	118	▲8
仕入債務 回転期間	日	40	37	38	▲2
CCC	日	216	194	198	▲18
運転資金	億円	492	454	443	▲49

【対応施策】

【算出条件】 運転資金 ÷ 売上高 × 12か月 (6か月) × 30日

- ・ 売上債権：債権回収サイトの短縮
- ・ 棚卸資産：適正在庫水準の見直しと数量削減

質疑応答

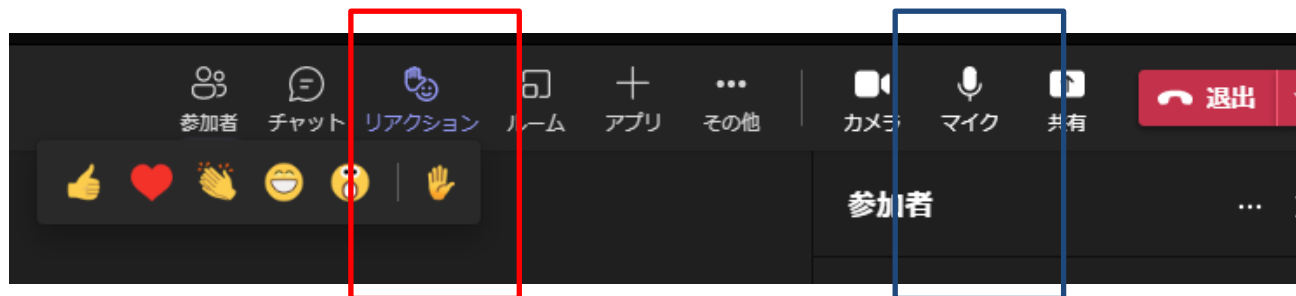
■ 質疑応答の順番

① 会場にお越しの皆様 → ② WEBでご参加の皆様

* 恐れ入りますが、WEBでご参加の皆様は、①での質疑終了までお待ち願います。

* 会場の時間の関係上、WEBからのご質問をお受けできない可能性がありますこと、予めご了承ください。

■ WEBからの質疑方法



ご質問のある方は画面上の「**リアクション**」から挙手をお願いします。

同時に複数の方が手を挙げられた場合には、順番にご案内します（手を挙げるボタンは押したままにしてください）。

事務局よりお名前をお呼びしますので、**マイクミュートを解除の上**ご発言を開始してください。（* 当社HPに公開する書き起しでは、お名前を伏せさせていただきます。）

質疑応答が終わりましたら同じ「**リアクション**」機能から手をおろし、また**マイク**をオフにしてください。

2026年3月期 報告セグメント詳細

旧セグメント・新セグメントの関係性

旧セグメント

旧サブセグメント

新セグメント

24.3期

事業ポートフォリオ変革に向けた定義

25.3期 → 27.3期

成長事業

電子材料

化粧品材料

中長期の利益成長を牽引する
事業として、市場ニーズ取込みを
加速

電子材料

化粧品材料

有機化学品

安定事業

衛生材料

有機化学品

25.3期～成長事業へ

受託加工

安定収益を創出する事業として、
今後も維持

衛生材料

受託加工

効率化
検討事業

酸化チタン・亜鉛

樹脂添加剤

触媒

* 無機材料

事業構造や業績水準を踏まえ、
**抜本的な対策を実施し、
安定・成長事業へのシフト**を図る

酸化チタン 亜鉛

樹脂添加剤

触媒

* 無機材料

医療事業

薬価改定の影響を受けない
製品へのシフト

医療

* New

化学事業



電子材料

● 前年同期比

	25.3 上期		26.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	5,164	—	5,847	—	682	13.2
営業利益	668	13.0	1,014	17.4	345	51.7

● 期初計画比

	26.3 計画		26.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	10,100	—	5,847	—	57.9	
営業利益	1,430	14.2	1,014	17.4	70.9	

● 前年同期比

売上高	(+) 価格改定の浸透、販売数量の増加 価格改定された製品の荷動き増加により、増収となった。誘電体は、上期後半から車載関連の荷動きが活発化した。誘電体材料は、AIサーバー関連と思われる荷動きが好調に推移した。
営業利益	(+) 価格改定の浸透、販売数量の増加 前期下期以降に浸透し始めた価格改定効果が、今上期にも寄与し、販売数量の増加も相まって、大きく増益となった。また、誘電体材料に関しては、販売構成差の改善も増益に寄与した。

● 期初計画比

売上高	(+) 販売数量の増加 半導体市況の回復に伴い、誘電体・誘電体材料の出荷が好調に推移した結果、計画進捗率は 57.9% となった。
営業利益	(+) 販売数量の増加、販売構成差の改善(誘電体材料) 誘電体・誘電体材料ともに期初計画よりも販売が好調だったことに加え、誘電体材料については販売構成差の改善もあったことから、計画進捗率は 70.9% となった。

化粧品材料

● 前年同期比

	25.3 上期		26.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	1,211	—	694	—	▲516	▲42.7
営業利益	22	1.9	▲215	—	▲238	▲1039.3

● 期初計画比

	26.3 計画		25.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	2,800	—	694	—	24.8	
営業利益	270	9.6	▲215	—	—	

● 前年同期比

売上高	(－) 販売数量の減少 国内向けは、中国の景気後退の影響が依然継続しており、販売数量は減少した。また海外向けについては、前期末に出荷が集中した影響もあり、販売数量が減少し、国内外ともに減収となった。
営業利益	(－) 販売量の減少 国内外ともに販売数量の減少影響が響き、大きく減益となった。

● 期初計画比

売上高	(－) 販売数量の減少 中国の需要低迷により販売数量が減少が想定以上に長引いており、米国での需要低下や有機系紫外線吸収剤適用の増加をとった外部環境の悪化の影響が大きく、計画進捗率は 24.8% となった。
営業利益	(－) 販売数量の減少 売上高の背景同様、期初想定よりも販売数量が振るわず、営業損失となった。

有機化学品

● 前年同期比

	25.3 上期		26.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	3,184	—	3,814	—	630	19.8
営業利益	336	10.6	502	13.2	165	49.2

● 期初計画比

	26.3 計画		26.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	7,500	—	3,814	—	50.9	
営業利益	730	9.7	502	13.2	68.8	

● 前年同期比

売上高	(+) 販売構成差の改善（医薬品原薬中間体） プラスチックレンズ向け添加剤は堅調に推移する一方、医薬品原薬中間体では、収益性が低い開発品中心販売から主力商流品の出荷へと販売構成が改善した結果、増収となった。
営業利益	(+) 販売構成差の改善（医薬品原薬中間体） プラスチックレンズ向け添加剤での価格改定浸透に加え、医薬品原薬中間体では、主力商流品の中心の販売構成になったことで、増益となった。

● 期初計画比

売上高	(+) 医薬品原薬中間体の受注の前倒し プラスチックレンズ向け添加剤の販売量は計画量をやや下回ったが、医薬品原薬中間体の受注が期初計画よりも前倒しとなったため、計画進捗率は 50.9% となった。
営業利益	(+) 原燃料費の抑制、医薬品原薬中間体の受注の前倒し 医薬品原薬中間体の受注の前倒しの影響が大きく、計画進捗率は 68.8% となった。

衛生材料

● 前年同期比

	25.3 上期		26.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	2,843	—	2,570	—	▲272	▲9.6
営業利益	206	7.3	181	7.0	▲25	▲12.3

● 期初計画比

	26.3 計画		26.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	5,600	—	2,570	—	45.9	
営業利益	440	7.9	181	7.0	41.1	

● 前年同期比

売上高	(－)販売数量の減少 インドネシア紙おむつ市場のコモディティ化による、通気性フィルムの伸び悩みの影響で、減収となった。
営業利益	(－)販売数量の減少、諸経費の増加 インドネシア現地での通気性フィルムの販売が伸び悩む中、現地での人件費含めたインフレによる諸経費の高騰の影響もあり、減益となった。

● 期初計画比

売上高	(－)販売数量の減少 インドネシア紙おむつ市場のコモディティ化に加え、輸入商材の荷動きが中国安価品による苦戦を強いられた影響もあり、計画進捗率は 45.9% となった。
営業利益	(－)販売数量の減少 売上高同様、現地紙おむつ市場のコモディティ化により、当社汎用品の荷動きが鈍化したことに加え、輸入商材の荷動きが中国安価品の攻勢を受けており、計画進捗率は 41.1% となった。

受託加工

● 前年同期比

	25.3 上期		26.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	3,160	—	3,291	—	130	4.1
営業利益	331	10.5	351	10.7	20	6.3

● 期初計画比

	26.3 計画		26.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	6,700	—	3,291	—	49.1	
営業利益	710	10.6	351	10.7	49.4	

● 前年同期比

売上高	(+) 販売数量の増加 (工程受託) 特に工程受託において、新規採用の獲得や継続案件の成長により販売量が増加し、増収となった。
営業利益	(+) 販売数量の増加 (工程受託) 工程受託による新規および既存の販売数量増加による影響で、増益となった。

● 期初計画比

売上高	(±)販売数量の増減 (増：工程受託 減：加工顔料) 加工顔料での特に住宅関連市場に関連する商材の荷動きが鈍化したため、工程受託での販売数量の増加したため、計画進捗率はほぼオンラインの 49.1% となった。
営業利益	(±)販売数量の増減 (増：工程受託 減：加工顔料) 売上高同様の理由により、進捗率はほぼオンラインの 49.4% となった。

酸化チタン・亜鉛製品（化粧品材料を除く）

● 前年同期比

	25.3 上期		26.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	6,732	—	5,138	—	▲1,593	▲23.7
営業利益	557	8.3	657	12.8	100	18.0

● 前年同期比

売上高	(－) 販売数量の減少、国内亜鉛建値相場の下落 酸化チタンは、中国品の安価攻勢を追いかけず、採算性重視の戦略もあり販売数量が減少した。亜鉛製品は、販売は堅調に推移するも、国内亜鉛建値相場の下落により、減収となった。
	(＋) 価格改定、修繕費圧縮 亜鉛製品の国内亜鉛建値相場の下落によるマイナス要素はあったものの、酸化チタンの価格改定の浸透や、修繕費の圧縮効果により、増益となった。
営業利益	

● 期初計画比

	26.3 計画		26.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	11,900	—	5,138	—	43.2
営業利益	1,140	9.6	657	12.8	57.6

● 期初計画比

売上高	(－) 販売数量の減少、国内亜鉛建値相場の下落 酸化チタンは数量を追わずに終売に向けた調整をしており、期初計画値よりも販売量が減少した。亜鉛製品については、国内亜鉛建値相場の下落の影響が響き、計画進捗率は43.2%となった。
	(＋) 修繕費の圧縮 特に顔料級酸化チタンの終売に向けた取り組みの中で、修繕費の圧縮を進めた結果、計画進捗率は57.6%となった。
営業利益	

樹脂添加剤

● 前年同期比

	25.3 上期		26.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	6,526	—	5,820	—	▲705	▲10.8
営業利益	682	10.5	520	8.9	▲162	▲23.8

● 期初計画比

	26.3 計画		26.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	13,600	—	5,820	—	42.8
営業利益	1,430	10.5	520	8.9	36.4

● 前年同期比

売上高	(－) 販売数量の減少 国内では採算重視で出荷を抑制した低採算品の数量減の影響により販売数量が減少した。また海外では、特にタイ国の政情不安による景気の低迷を受け、インフラ整備などの公共工事が減少しそれ向けの材料の荷動きが鈍化したため、減収となった。
営業利益	(－) 販売数量の減少 国内での価格改定の浸透が進み増益となった。また海外のベトナム現地法人では、非鉛系安定剤の出荷が堅調に推移しているものの、売上高同様、タイ現地法人での販売苦戦の影響が大きく、減益となった。

● 期初計画比

売上高	(－) 販売数量の減少 国内は住宅関連需要の低迷の影響を受け、販売数量が期初計画よりも減少した。海外については、ベトナム現地法人では一部中国経済の影響や、タイ現地法人での政情不安により、販売数量が伸びず、計画進捗率は 42.8% となった。
営業利益	(－) 販売数量の減少 国内外ともに、売上高同様の背景で販売量が計画よりも振るわず、収益性が高い海外での販売減が大きいため、計画進捗率は 36.4% となった。

触媒

● 前年同期比

	25.3 上期		26.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	1,673	—	1,221	—	▲452	▲27.0
営業利益	92	5.5	150	12.3	57	62.5

● 期初計画比

	26.3 計画		26.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	3,500	—	1,221	—	34.9	
営業利益	430	12.3	150	12.3	34.9	

● 前年同期比

売上高	(-) 販売数量の減少 ニッケル触媒は顧客の操業度の関係で販売数量が減少し、脱硝触媒も受注量が減少し、売上高は減少した。
	(+) 生産拠点集約等の効率化費用の軽減、価格改定 前期から取り組んでいた生産拠点の集約が完了するなど、効率化に向けた費用負担が軽減した。また価格改定の浸透もあり、販売数量は振るわなかったが、増益となった。
営業利益	

● 期初計画比

売上高	(±) 概ね計画通り ニッケル触媒では顧客の操業度の関係、脱硝触媒も受注のタイミングの関係で下期に販売量を伸ばす計画であったため、計画進捗率は 34.9% であるが、概ね計画通りである。
	(±) 概ね計画通り 売上高に記載の通りであり、かつ、生産拠点の集約含めた効率化の進捗も順調であり、計画進捗率は 34.9% となった。
営業利益	

無機材料

● 前年同期比

	25.3 上期		26.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	2,875	—	2,633	—	▲242	▲8.4
営業利益	461	16.1	491	18.7	29	6.4

● 期初計画比

	26.3 計画		26.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	5,400	—	2,633	—	48.8	
営業利益	930	17.2	491	18.7	52.8	

● 前年同期比

売上高	(+) 価格是正 効率化に向けた取り組みにより販売数量は減少しているが、価格是正の浸透の効果が大きく、売上高は微増となった。
営業利益	(+) 価格是正、高付加価値品の出荷の寄与 塗料・インキ向けなどのバリウム製品の価格是正が浸透し、メガネレンズ向け高付加価値品の販売も寄与し、増益となった。

● 期初計画比

売上高	(±) 概ね計画通り 効率化に向けた価格是正や製品の統廃合、高付加価値品の取り組みを実行しており、計画進捗率は48.8%となった。
営業利益	(±) 概ね計画通り 売上高同様、効率化に向けた取り組みにより、計画進捗率は 52.8% となった。

医療事業

● 前年同期比

	25.3 上期		26.3 上期		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	3,998	—	4,356	—	358	9.0
営業利益	68	1.7	72	1.7	3	5.8
売上高 (新規)	898	—	978	—	80	8.9

* 新規とは、薬価改定の影響を受けない新規事業のことです。

● 期初計画比

	26.3 計画		26.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	8,600	—	4,356	—	50.7
営業利益	0	0.0	72	1.7	—
売上高 (新規事業)	1,918	—	978	—	51.0

● 前年同期比

売上高	(+) 医療機器や医療用受託品の販売量増加 バリウム造影剤の出荷数量は減少したが、医療機器の販売数量の増加や医療用受託品である骨充填材の受注の増加などにより、売上高は増加した。
営業利益	(+) 医療機器や医療用受託品 医療機器の販売台数の増加や、医療用受託品の増加による販売数量の増加や稼働率向上による利益率改善などにより、増益となった。

● 期初計画比

売上高	(±) 概ね計画通り 検査数の減少などにより、バリウム造影剤の出荷量は減少したものの、医療機器の販売台数が計画以上に推移したこともあり、計画進捗率は、50.7% となった。
営業利益	(-) OTC医薬品、美容製品関連 OTC医薬品は市場全体が低迷したため販売数量が減少し、高付加価値品の美容製品関連も低迷したため、通期計画からはビハインドしている。

参 考 資 料

- 当社概要
- 事業紹介
- 業績推移等



本 社	堺市堺区戎島町5丁2番地
代 表 者	代表取締役社長 矢 倉 敏 行
創 業	1918年6月
事業内容	無機化学工業製品、有機化学品、医薬品の 開発・製造・販売
総 資 産	121,908百万円（2025年9月末現在）
純 資 産	78,887百万円（2025年9月末現在）
関係会社	連結子会社15社（国内7社、海外8社）
従業員数	連結1,933名／単体833名（2025年3月末現在）

当社グループと報告セグメントの関係性について

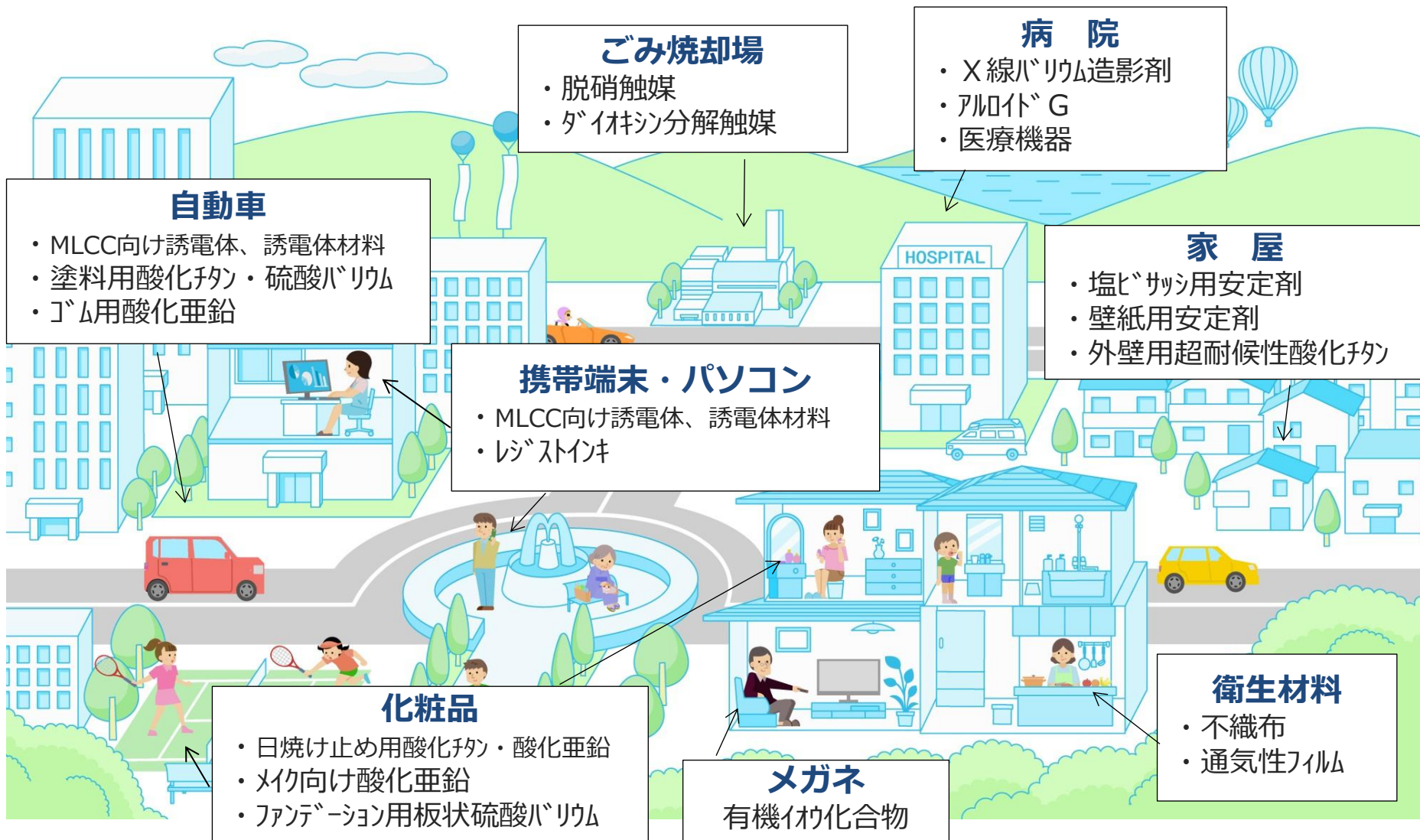
	電子材料	化粧品材料	有機化学品	衛生材料	受託加工	酸化チタン亜鉛製品	樹脂添加剤	触媒	無機材料	医療事業	その他
堺化学工業(株)	●	●	●			●	●	●	●	●	
堺商事(株)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カイゲンファーマ(株)										●	
大崎工業(株)											●
レジノカラー工業(株)					●						
共同薬品(株)							●				
日本カラー工業(株)					●						
(株)片山製薬所			●								
SCVN*1							●				
SSC*2							●				
S&S*3				●							

* 1 : SAKAI CHEMICAL(VIETNAM) CO., LTD.

* 2 : SIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD.

* 3 : PT. S&S HYGIENE SOLUTION

暮らしに息づく当社グループ製品



セグメント集計の変更に関して

目的

堺商事株式会社を完全子会社化したことに伴い、同社の事業内訳を正確に把握し、併せて、より実態に即したセグメント情報の管理・開示を可能とする。

変更内容

- ① 報告セグメントであった化学事業を廃止し、同事業におけるサブセグメントをそれぞれ報告セグメントへと変更
- ② 化学事業のその他に含まれていた無機材料を、報告セグメントとして別掲
- ③ 堺商事株式会社が扱う事業を、より正確に各報告セグメントへ分類

旧

◇ 化学事業

- ・電子材料
- ・化粧品材料
- ・有機化学品
- ・衛生材料
- ・受託加工
- ・酸化チタン・亜鉛製品
- ・樹脂添加剤
- ・触媒
- ・その他

◇ 医療事業

◇ . . . 報告セグメント

新

◇ 電子材料

◇ 化粧品材料

◇ 有機化学品

◇ 衛生材料

◇ 受託加工

◇ 酸化チタン・亜鉛製品

◇ 樹脂添加剤

◇ 触媒

◇ 無機材料

◇ 医療事業

◇ その他(上記以外のもの)

報告セグメントの四半期推移

セグメント業績推移（四半期）

(Segment Performance Trends (Base on Quarterly))

新集計

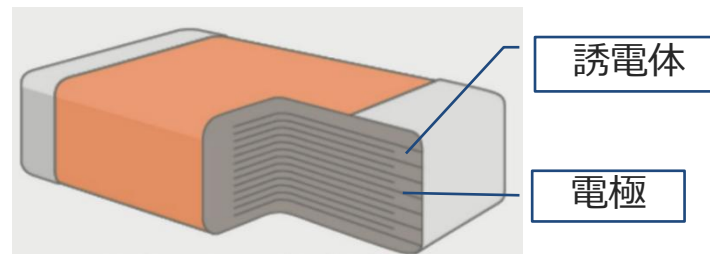
Revised Aggregation Method

単位：百万円 (Unit : Million Yen)			25.3期 (FY 2024)				26.3期 (FY 2025)			
			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
電子材料	売上高	Net Sales	2,716	2,448	2,383	2,465	2,870	2,976		
Electronic materials	営業利益	Operating Profit	341	327	481	342	476	538		
化粧品材料	売上高	Net Sales	757	454	590	873	337	357		
Cosmetics Materials	営業利益	Operating Profit	85	-62	88	182	-63	-152		
有機化学品	売上高	Net Sales	1,953	1,230	1,437	2,016	2,121	1,692		
Organic chemicals	営業利益	Operating Profit	372	-36	151	282	459	43		
衛生材料	売上高	Net Sales	1,433	1,410	1,419	1,361	1,283	1,287		
Hygienic products	営業利益	Operating Profit	111	95	107	112	79	101		
受託加工	売上高	Net Sales	1,610	1,549	1,639	1,623	1,596	1,695		
Contract processing	営業利益	Operating Profit	179	151	166	122	171	180		
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	Net Sales	3,558	3,174	3,277	3,109	2,688	2,450		
Titanium dioxide and zinc products	営業利益	Operating Profit	369	187	369	553	409	248		
樹脂添加剤	売上高	Net Sales	3,197	3,328	3,461	3,073	3,012	2,808		
Plastic additives	営業利益	Operating Profit	298	383	390	320	341	178		
触 媒	売上高	Net Sales	791	882	758	754	472	748		
Catalysts	営業利益	Operating Profit	-10	103	70	-144	-3	154		
無機材料	売上高	Net Sales	1,247	1,628	1,130	1,168	1,341	1,291		
Barium business	営業利益	Operating Profit	207	254	328	36	289	201		
医療事業	売上高	Net Sales	2,126	1,871	2,581	1,741	2,097	2,258		
Medical business	営業利益	Operating Profit	-10	78	133	-226	6	65		
そ の 他	売上高	Net Sales	2,476	2,320	2,719	2,653	2,313	2,649		
Other	営業利益	Operating Profit	254	143	386	386	314	410		
全社費用 (HQ expenses)		HQ Expenses	-603	-596	-622	-553	-574	-591		
合 計	売上高	Net Sales	21,869	20,299	21,399	20,842	20,136	20,216		
TOTAL	営業利益	Operating Profit	1,596	1,030	2,052	1,414	1,904	1,379		

電子材料

積層セラミックコンデンサ

- ・誘電体（チタン酸バリウム）
- ・誘電体材料（高純度炭酸バリウム）



電子機器には欠かせない積層セラミックコンデンサのメイン材料。

誘電体は電気をたくさん貯める性質を持ちます。

当社は、微細で形が均一に揃った球状の誘電体を開発し、コンデンサの性能向上に貢献していきます。

こんなところに
使われています



化粧品材料

日焼け止め、ファンデーション

- ・化粧品材料 … 高い紫外線遮蔽や滑らかな肌触りを
実現

こんなところに
使われています



有機化学品

プラスチックレンズ、コンクリート、潤滑油、医薬品

- ・有機イオウ化合物 … メガネレンズの屈折率向上、
コンクリート混和剤としても
- ・有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
- ・医薬品原薬・中間体

こんなところに
使われています



事業の紹介

衛生材料

おむつ、生理用品

- ・通気性フィルム … 水分を留めて空気だけを通す

海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。

こんなところに
使われています



受託加工事業

無機・有機化学工業製品の受託製造

…顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など

さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野のカスタマイズ品や
量産試作対応等に、お応えしています。



樹脂添加剤

パイプ、継手、窓枠、壁紙、ワイヤーハーネス

- ・塩ビ安定剤・非塩ビ安定剤

- ・ハイドロタルサイト ... 非鉛系塩ビ安定剤や
高い保温性と透明性から農業用フィルムに



塩ビ安定剤は、樹脂の加工性向上や劣化抑制などのために添加されます。現在、世界的に塩ビ安定剤の脱鉛化が進んでおり、非鉛系への切替えが加速しています。

ベトナム子会社では非鉛系安定剤およびその原料となるハイドロタルサイトを製造、タイ子会社では鉛系・非鉛系安定剤を製造し、いずれも東南アジアを中心に販売を拡大しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介

酸化チタン・亜鉛製品

- ・酸化チタン…着色力、隠ぺい力、耐候性、
化学的安定性に優れる白色顔料
- ・酸化亜鉛…ゴム製品の加硫促進助剤

こんなところに
使われています

酸化チタンは、塗料やインキ、製紙、プラスチック、
化学繊維などあらゆる分野に必要とされる素材です。



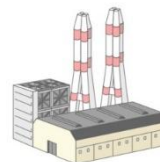
触媒

ごみ焼却場、火力発電所、接着剤、光学フィルム

- ・脱硝触媒…窒素酸化物を除去
- ・プロセス触媒(ニッケル触媒)…油脂・樹脂の水素化など

ニッケル触媒は使用先の光学フィルムや紙おむつ接着剤の
需要増加に伴い、事業を拡大を目指しています。

こんなところに
使われています



無機材料

- ・ 硫酸バリウム
- ・ ストロンチウム塩類
- ・ ジルコニアゾル 等

硫酸バリウムは、各種塗料やインキ、フィルムなどへ配合されており、意匠性向上や耐熱性向上など、各製品へ必要な機能をサポートしています。また開発品としてジルコニアゾルも取り扱っており、主にメガネレンズ向けの屈折率調整剤等として使用されています。

こんなところに
使われています



事業の紹介＜医療＞



カイゲンファーマ(株)

X線バリウム造影剤

…消化管撮影



1931年に原料となる薬用硫酸バリウムの製造を開始。
定期検診でお馴染みのものですが、
海外への輸出も行っています。

医療機器

・内視鏡用洗浄消毒器



バリウムから胃カメラ検診への
移行に対応。
薬価改定の影響を受けない事業と位置
付け、開発に注力しています。

アルロイドG

…消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬

胃・十二指腸潰瘍の止血や
粘膜保護、逆流性食道炎に
おける自覚症状を改善。



一般用医薬品

- ・「改源」シリーズ
- ・カイゲン顆粒
- ・カイゲンパックIB顆粒



「メイドインジャパン」品質で台湾市
場への販売を開始。

ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。